

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ②

5月検針分（主に3・4月使用分）

用途別の影響

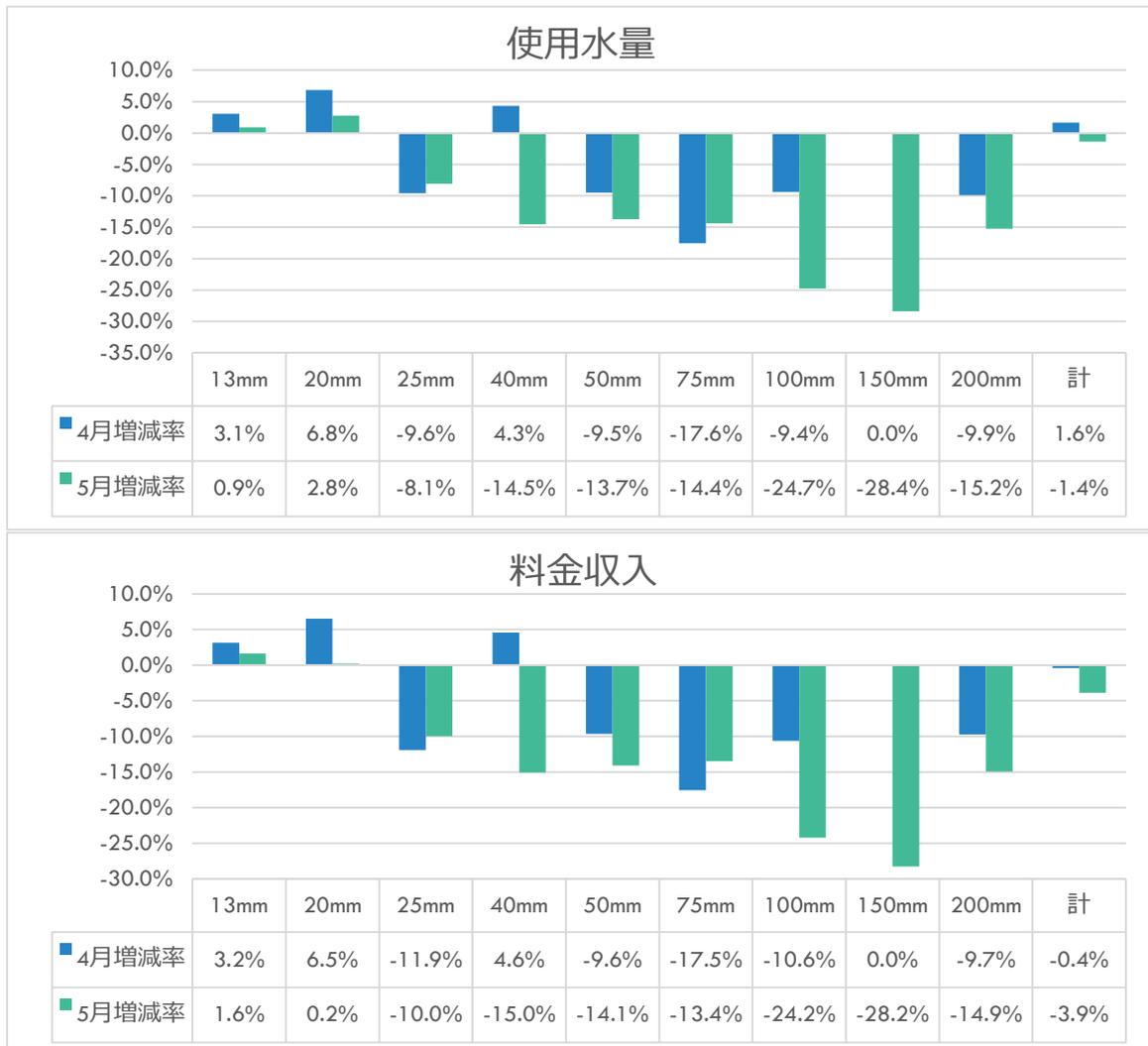
令和2年5月検針データを前年と比較すると、下表にまとめたとおり4月と同様に主に家事用に用いられる口径13mmと20mmのメーターでは水量、金額ともに増え、主に業務用となる口径25mm以上のメーターではともに減少しています。また、全体では、4月とは異なり水量、料金ともに減少しています。

4月に引き続き、使用水量が多い業務用で用いられる従量料金単価の高い区分での使用水量が減り、使用水量が少ない家事用で用いられる単価が低い区分での使用が増えたことがわかりますが、供給単価（1m³当たりの収入）の減少は、4月の2.44円から3.03円に拡大しています。また、25mm以上の水量と料金の減少は、4月の8%前後から16%に拡大しました。市中における事業活動の停滞が伺えます。

検針年	区分	20mm以下	25mm以上	合計
H31 (2019)	水量 (m ³)	1,179,024	212,112	1,391,136
	金額(税抜き:円)	116,613,780	47,872,085	164,485,865
	供給単価(円)	98.91	225.69	118.24
R2 (2020)	水量 (m ³)	1,194,232	178,087	1,372,319
	金額(税抜き:円)	118,150,425	39,953,955	158,104,380
	供給単価(円)	98.93	224.35	115.21
増減	水量 (m ³)	15,208	△ 34,025	△ 18,817
	増減率	1.29%	△16.04%	△1.35%
	金額(税抜き:円)	1,536,645	△ 7,918,130	△ 6,381,485
	増減率	1.32%	△16.54%	△3.88%
	供給単価(円)	0.03	△ 1.34	△ 3.03
	増減率	0.03%	△0.59%	△2.56%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 13mm、20mm 以外のすべての口径で使用水量、料金収入ともに減少しています。合計では、使用水量は 1.4%、料金収入は 3.9%減少しました。



結論

使用水量、料金収入ともに合計値の変動率は、令和元年度における月ごとの変動の範囲内（水量△4.2%～2.5%、料金△4.4%～5.5%）に収まってはいますが、業務用の落ち込みは、4月検針データよりも拡大しています。

また、昨年度の4・5月検針分合計の料金収入は、一昨年度よりも1.3%減でした。今年度4・5月検針分の合計は、2.0%減であり、減収幅は拡大しています。業務用の落ち込みには、今後も注視していく必要があります。